

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 篠田 典宏

論 文 題 目

Predictive Value of Heart Rate Recovery after Exercise Testing in Addition to Brain Natriuretic Peptide Levels in Ambulatory Patients with Nonischemic Dilated Cardiomyopathy


(安定した非虚血性拡張型心筋症患者において脳性ナトリウム利尿ペプチドに運動負荷試験後の心拍数の回復を追加した際の予後予測価値)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査

委 員

神谷 香一郎 

名古屋大学教授

委 員

山下 正 

名古屋大学教授

委 員

押目 芳治 

名古屋大学教授

指導教授

室原 豊明 

## 論文審査の結果の要旨

心不全による入院は、あらゆる疾病による入院全体の主な原因の一つであり、心不全増悪による入院を防ぐのは重要な課題である。

運動負荷試験後の心拍数の回復は、自律神経機能との関連が言われており、虚血性心疾患における予後予測因子の一つであることが証明されているが、非虚血性心筋症において、詳細はよく分かっていない。

本研究では、安定した非虚血性拡張型心筋症の心不全患者に対して、運動負荷試験を行い、負荷後の心拍数の回復を測定し、心不全増悪による入院を追跡した。その結果、運動負荷試験後の心拍数の回復は心不全増悪による入院の予測因子として有用であり、BNP と複合することで予後予測のより有用な情報を得ることができると判明した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。





1. 運動負荷試験後の心拍数の回復を測定することで、現在行われている検査、診療では、安定していると判断されていた重症患者を早期に発見できる可能性がある。
2. BNP に運動負荷試験後の心拍数の回復を追加することで、心不全を多面的に観察することができ、より精密な心不全管理が可能となる。
3. 運動負荷試験後の心拍数の回復は、負荷後早期には、副交感神経の不活性化の関与が強いことが報告されており、今回の研究では、ベータ受容体遮断薬の影響が少ないことが予想される。
4. 運動負荷試験後の心拍数の回復を改善するための治療法に関しては、心臓リハビリが有効であるという報告もあり、心機能の低下した慢性心不全患者に対しても、運動負荷試験を慎重に行い、適切な運動処方を行うことは重要である。

本研究は、運動負荷試験後の心拍数の回復が、非虚血性拡張型心筋症患者の心不全入院に対する重要な予測因子であることに対して、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙 2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	篠田 典宏
試験担当者	主査	神香一郎  松下 正  押田 芳彦 		
	指導教授	室原 豊明 		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベータ受容体遮断薬の運動負荷試験後の心拍数の回復に対する影響について</li> <li>2. 心機能低下者の運動療法について</li> <li>3. 運動後負荷試験後の心拍数の回復の測定意義と臨床的有用性について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

別紙 3

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	篠田 典宏			
学 力 審 査 担 当 者	主 査	神香一郎	神谷	山下 正	松	柳田 芳久	松
	指導教授	室原豊明	室原				
<p>(学力審査の結果の要旨)</p> <p>名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。</p>							